

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0970400388		
法人名	有限会社グループホーム・ナーシングハピネス		
事業所名	グループホーム・ナーシングハピネス		
所在地	栃木県佐野市小中町2011-4 (電話) 0283-20-1160		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年12月1日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年10月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算6.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代, おむつ代, その他一実費を預かり金から支払い(預かり金=1万円~2万円程度)	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(入所3ヶ月以内で退所の場合は返金、以降は部屋の修繕費等に使用とし返金なし)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,334 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年10月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2		名	
要介護3		5 名	要介護4		2 名	
要介護5		2 名	要支援2		名	
年齢	平均	90.1 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おぬき内科クリニック, うえき歯科		
---------	-------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯が広がる新興住宅地の中に「ナーシングハピネス」がある。他市の障害者のための病院で勤務していた看護師4人が認知症の介護に取り組もうと、平成13年10月から準備し、翌年1月1日に開設した。「『安全で快適な共同生活を支援する』『日々の研鑽と誠意ある介護に努める』『社会的、身体的、精神的に安らぎの場を提供する』」を基本理念とし、看護師の視点で入居者をサポートしながら家庭的な雰囲気の中で共に生活を送っている。近くに障害者の施設があることから、地域の方たちのホームに対する理解も深く、ホームと地域が頼り頼られる関係になっている。入居者は男性・女性が約半数ずつである。入居者や職員の異動が少なく、入居者・職員とも笑顔があふれ、歌を楽しく歌い、アットホームな雰囲気が漂うホームである。入居者も年々歳を重ね、思い立ったら外出をする機会も減ってきているが、庭を工事してベンチを置き、「陽だまりでのんびり日向ぼっこを」と考えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員間で日頃から話し合う機会を設けており、できることから改善にむけて取り組んでいる。定期的な会議の開催、地域の方との避難訓練の実施、家族会の立ち上げに向けた声かけなどの改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日々職員間で意見を交換し、自己評価についても話し合った。今回の自己評価は、おもに開設時からの職員と共に考え、意見を交換し管理者がまとめた。管理者は、外部評価は事業所の振り返りの機会として評価結果を真摯に受けとめている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月の最後の日に定期的開催されている。民生委員・隣組のご夫妻・地域包括支援センター職員・入居者・家族・職員が参加し、ホームの現状報告や行事の予定・外部評価の報告・ボランティアや実習者の受け入れ、研修会の参加などについて話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は家族の訪問時に記録を見てもらい、暮らしぶりや健康状態・金銭管理などを報告している。家族の訪問時や運営推進会議時に意見・苦情・不安などを言ってもらえる機会をつくり、家族の意見を真摯に受けとめ良い関係づくりができるように努めている。玄関に意見や苦情の受付の掲示があった。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、入居者と共にクリーン運動・会館や寺の清掃への参加、隣組の葬儀の手伝いなどを行っている。また、家庭菜園を通して隣近所とお付き合いしたり、公園に出かけて話をしたり、飴の交換をしたりして地域の方たちと交流する機会をもっている。今年度は防災訓練も一緒に実施した。開設から7年が経過し、地域に根づき、頼り・頼られるホームになっている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「『安全で快適な共同生活を支援する』『日々の研鑽と誠意ある介護に努める』『社会的、身体的、精神的に安らぎのある場を提供する』」を運営理念とし、地域に根づいた生活を送っている。将来的には理念の見直しを行い、文章の省略化をしたいと考えている。	○	将来的に見直しを行う際に、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとして「地域」という視点で事業所が大切にしたいことを理念に加えることにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に会議を開催するようになった。定期会議の場や普段のカンファレンスで話し合いながら理念に基づく実践ができるよう日々取り組んでいる。運営理念は居間の見やすいところに掲示してあった。訪問調査時のケアの様子から理念を実践している様子がうかがえた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、入居者と共にクリーン運動・会館や寺の清掃への参加、隣組の葬儀の手伝いなどを行っている。また、家庭菜園を通して隣近所とお付き合いしたり、公園に出かけて話をしたり、館の交換をしたりして地域の方たちと交流する機会をもっている。今年度は防災訓練も一緒に行った。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、外部評価は事業所の振り返りの機会として評価結果を真摯に受けとめている。日々職員間で意見を交換し、今回は開設時からの職員と共に考え管理者がまとめた。定期的に会議を開催し、家族会のハシゴ役になれるよう声かけをしているところである。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月の最後の日に定期的開催されている。民生委員・隣組のご夫妻・地域包括支援センター職員・入居者・家族・職員が参加し、ホームの現状報告や行事の予定・外部評価の報告・ボランティアや実習者の受け入れ、研修会の参加などについて話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの立ち上げ時から市の担当者は協力的であり、現在は管理者の生の声を良く聞いてくれている。運営推進会議には地域包括支援センターが出席しているが、市長あてに市職員の参加の依頼書を出している。介護保険更新の代行で他県や他市に出向くことを連携を図る機会としている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回以上は家族の訪問があり、多い方は毎週家族が訪問して泊まっていく家族もいる。家族の訪問時には記録を見てもらい普段の暮らしぶりや健康状態、金銭管理を報告している。職員の異動は少ないが随時報告・紹介をしている。ホームの行事など全体的なことは、運営推進会議で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議時に意見や不満・苦情などを言ってもらう機会をつくっている。昨年家族を招きバーベキューを行ったが、家族間のコミュニケーションが少なかったため、家族会の立ち上げの一助となるよう管理者は声かけをしている。玄関に意見・苦情の受付の掲示がしてあった。家族の意見を真摯に受けとめ、良い関係づくりができるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、今回新規に採用になった職員は事前にボランティアとして関わってもらい、1対1でケアにあたるなど、新しい職員がスムーズに入居者を支援できるよう配慮や工夫をしている。以前退職した職員が再就職した例もある。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前からすでに認知症介護研修を4人が受講している。運営理念にも掲げているように、日々研鑽をつみ、カンファレンス時や会議を利用して内部研修会を行い、また機会を捉え県や市の外部研修会を受講している。最近では管理者が講師となって薬に関する研修会を実施した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内でも早い時期に開設したグループホームであり、看護師の資格を持つ職員が多いことから、新設のホーム等から見学や実習の依頼が多い。実習を受け入れ、他者にアドバイスなどを行うことで自分たちの反省の機会ともなっている。同業者と交流の機会をもち、情報を交換し共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ここ2年ぐらいは新しく入居される方はいないが、新しく入居される場合には1週間前後の期間を仮契約として入居してもらっている。ホームでの生活に馴染むまでに個人差はあるが、入居後、一緒に歌を歌ったり、話をしたり、時には入居者の協力で一緒に囲碁をしたりと、共に生活を送りながら支えあう場面をつくり、ホームに馴染めるような雰囲気づくりをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は日々一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にしながら生活している。入居者から戦争中の体験、作物の種まきの仕方、煮付けの仕方、歌の歌詞を覚えてもらったりしている。訪問調査当日も、入居者と職員と一緒に歌を楽しそうに歌っていた。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報収集の時に、本人や家族から暮らし方の希望を聞き、その把握に努めている。加齢に伴う心身の機能低下などがあり、思いや意向の表出が困難な場合は、「笑顔」を指標として興味・関心の把握に努め、本人本位の支援ができるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・職員・かかりつけ医と話し合い、管理者であるケアマネジャーがそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護保険更新時にも見直しを行っている。「大きな変化はないが徐々に変化している現状」に即した新たな介護計画の作成が困難な場合がある。どちらかというと心身的な問題や課題を優先している介護計画が多い。	○	定期的なモニタリングの実施を継続しながら「ゆるやかではあるが変化している場合」の現状に即した介護計画の見直しについて、関係者とも話し合いながら適時な見直しをしていくことに期待したい。また、心身の状態を踏まえながらも更に「その人らしい生活」の視点を入れた介護計画の作成にも期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は必ず職員が付き添って支援している。入居者の状態もあり、外出など、思い立ったら柔軟に対応する機会は減ってはいるが、その時々々の希望に応じるようにしている。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行して、すべての入居者がかかりつけ医で定期的に受診しており、医師に病状の報告をして、受診結果を家族に報告している。薬の処方のみ場合は医師に事前にFAXで病状を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、家族などに早い段階から確認している。「最期までホームで」と希望する方が多い。ターミナル期をホームで過ごし、ぎりぎりまでホームで過ごした方もいた。看護師資格を持つ職員が多く、「腕の中で最期を看取ってあげたい」と思っている。	○	入居者・家族の希望がかなえられるよう、またホームの思いが実現するよう、運営推進会議も活用しながら重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、また医療関係者とも連携を深めていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は入居者の個性を大切に、一人ひとりにあった対応を心がけている。排泄に関しては、その方の所作から察知してさりげなく誘導している。言葉かけも、褒めたり、励ましたり、その時々合わせた対応をし、入居者のプライバシーや誇りを尊重するように支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・外出・入浴・起床・レクリエーションなど、その方のペースを大切にして支援している。その日をどう過ごしたいかの希望の表現は難しくなっているが、生活を送っている中で入居者の笑顔から推察して支援することもある。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや後片付けなど、できることを職員と共にやっているが、年々参加が難しくなっている現状がある。食事は大切なものとして捉え、職員が料理教室へ通い、栄養士のアドバイスももらっている。バランスを考え、おいしそうな盛り付けや配色、味付け、米・自家製野菜などにこだわり、職員も入居者と同じ物を食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者はほぼ毎日、午後1時30分頃から入浴している。得意な歌を歌う方もいる。1人の職員の見守りや介助が基本であるが、重度化している方には2人で介助する場合もある。順番は、男性・女性を交互にしている。入りたがらないときは、「着替えをしましょう」と風呂場に誘導して入ってもらうこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、草むしり、畑の野菜づくり、掃除、雑巾しぼり、大工仕事の補助などを職員と一緒にやっている。また、皆で歌を歌ったり、思い立ったら出かけたりして気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1週間に2回、入居者の希望にそって、ドライブを兼ねて往復で1時間ほどのゴミ出しに出かけている。近所を散歩したりしているが、心身の機能低下に伴い外出が難しくなっている。椅子に座って外気浴ができるように塀を造る工事をしている。	○	体調や外気温を勘案しながら近隣の散歩やドライブ等を継続しつつ、工事が終了した後は外出が難しくとも日当たりの良いホームの玄関前のベンチで外気浴ができるような支援をしていくことに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の心理的な不安・閉塞感を理解しているが、入居者の安全を考慮し居室や玄関に鍵をかけている。入居者が外に出ていく気配や動作を見守り、声かけを行うなど職員間で連携し支援している。近所の方にも理解してもらい、声かけや連絡をしていただくこともある。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回、入居者と共に防災訓練を行っている。今年は地域の方とも訓練を行った。今後更にネットワークを広げたいと考えている。	○	火災や地震、昼夜など様々な場面を想定した訓練を行っていくことで対応力を強化していくことに期待したい。また、例えば地域の消防団の協力を依頼したり、避難場所として近隣の施設にも協力を依頼するなど、更なるネットワークづくりをしていくことにも期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分に気を配り、栄養士のアドバイスも受けて1日1,200キロカロリーを目安に支援している。朝は牛乳を取り入れたり、魚・肉も取り入れながら新鮮な自家製野菜を使って調理している。料理の得意な職員が多い。お粥やミキサー食、キザミ食など提供形態にも配慮している。必要に応じて食事量の記録をしている。月1回体重測定を実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に居間は入居者が1日を居心地よく過ごしている場所であり、不快な臭いが無いように自然換気に気を配っている。職員は、「臭いが無いのは介護の勲章」というポリシーを持っている。居間には近所の方の描いた絵を飾り、職員が持参した季節の花を生け、音や光にも気を配って環境づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は5畳ほどの広さであり、フローリングであるが現在は半数の方が畳を敷いている。使い慣れた家具などの持ち込みは少ないが、衣類は好みの物を持ってきている。部屋に家族の写真が飾られていた。タンスはホームが用意している。集中管理の冷暖房であるが、居室によってはエアコンやストーブの設置もある。居室の担当職員制を取り入れている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。